

すいせん



発行者 須崎協議会 文化厚生部
 下田市須崎1799番地
 須崎漁民会館内
 電話 0558(22)8056

題字: 梅田弥祐先生

観光部より 観光部長 長友靖尚

観光部長として前期2年間を空けて、4度目の夏を迎えました。仕事としては、爪木駐車場の管理、九十浜売店と海水浴場の運営、水仙まつりの運営管理などが大まかな仕事です。今回は九十浜売店の開店準備から閉店までの事を、お知らせしたいと思います。

6月中旬、海水浴場の整備から始まります。重機を入れ流木の撤去、漂着物の清掃、砂浜の整地など行ないました。下旬には協議会役員を中心に、手の足りない処は知人の協力を得ながら坂道の草刈りを行いました。7月に入り御用邸近くまでの沖合に、海水浴場区域を示すブイを設置する際に船外機を出してもらいました。これには皇宮警察官も乗船して、御用邸との境界部分を確認してもらいました。これらの作業と並行して、保健所の立入検査、両神社山本宮司による海水浴場の海の安全祈禱、売店の清掃と販売品の設置、監視所の設置、仮設トイレの設置などを終り開店となります。

今年7月16日の連休から8月21日までの営業でした。今回は人手が無く大変苦労しました。前半は男性アルバイト2名、女性アルバイト2名、私を含めても5名のスタートになりましたが、幸いにも4名のバイトさんはベテラン

で手際よく働いていただきました。

ところが8月になると、流石に疲れが出て売店等の仕事に支障がはじめて、思案中の時、男女2名の学生バイトさんが参加してくれ大変助かりました。疲れながらもどうにかお盆を乗り切り、21日まで事故もなく営業出来ました。売上げにつきましては、天候に恵まれてまずまずだったと思います。

最後に4年前に比べると浜の客数は多くなっているように感じますが、いろいろな物の持ち込みが増え、特に食べ物、飲み物はかなり多くなったようです。そのためか、売店での飲み食いには減少傾向にあると思います。コロナ禍の影響なのか時代なのか、駐車場は車を停めれば料金を貰えますが、売店で買う買わないはお客様の自由です。これからの売店の在り方を、少し考えなければならぬ時期ではないでしょうか。

追記事項

九十浜海の家売店の建物の活用は、海水浴シーズンの約45日間だけです。よって、建屋各所には老朽化が見受けられ、修理修繕を繰り返しています。今後修理修繕を要する箇所は、

- 入口雨戸4枚、売店雨戸4枚、高窓雨戸2枚、更衣室ドア3枚、シャワー室ドア3枚の修繕は必要です。

ご意見募集

市、区などへの要望
ご意見、ご質問
ご提言、ご質問

身近な話題

わが家の自慢、何でも結構。お寄せ下さい

須崎協議会事務所

SCOUTERS

八月の捕獲情報

- 2日(火) 括り罠 1頭 40匹 枚
坂条の助治の畑の上にて
- 6日(木) 括り罠 1頭 30匹 枚
福西の畑の寄せにて
- 8日(土) 括り罠 1頭 60匹 枚
小白浜2組長吉の畑寄せにて
- 9日(日) 括り罠 1頭 70匹 枚
須崎御用邸内にて
- 11日(木) 括り罠 1頭 50匹 枚
八幡の畑の反対側の山中にて
- 12日(金) 括り罠 1頭 50匹 枚
蜂山上の与惣左の畑寄せにて
- 15日(月) はく罠 1頭 50匹 枚
5匹×3頭 幼 枚3
- 権右の貸し住宅にて
- 19日(金) 括り罠 1頭 50匹 枚
須崎御用邸内にて
- 20日(土) はく罠 1頭 50匹 枚
5匹×3頭 幼 枚2 枚1
- 御台場の奥屋ミカン畑にて
- 坂条やし山畑下の徳屋の畑にて
- 21日(日) 括り罠 1頭 30匹 枚
福西の畑上の寄せにて
- 24日(水) 括り罠 1頭 40匹 枚
西部農道たなの山中にて
- 法円寺跡地の附近にて

八月の実施行事

- 3日(水) 古着回収
- 5日(金) 回覧日
- 6日(土) カイロ健康施術会(憩の家)
- 7日(日) 新盆水向
- 9日(火) リサイクル分別収集
- 11日(木) 【山の日】
- 17日(水) 区協議会定例会
- 21日(日) 古着回収
- 24日(水) カイロ健康施術会(憩の家)
- 九十九海水浴場終了閉鎖
- 市内小・中学校始業式

九月の予定行事

- 2日(金) 回覧日
- 3日(土) カイロ健康施術会(憩の家)
- 6日(火) 安全運転管理者講習会①
- 7日(水) 管理者講習会②
- 8日(木) 古着回収
- リサイクル分別収集
- 16日(金) 区協議会定例会
- 17日(土) カイロ健康施術会(憩の家)
- 19日(月) 【敬老の日】
- 21日(水) 胃がん検診(市民保健課)
- 22日(木) 古着回収
- 23日(金) リサイクル分別収集
- 【秋分の日】

十月の予定行事

- 1日(土) カイロ健康施術会(憩の家)
- 5日(水) 安全運転管理者講習会③
- 7日(金) 古着回収
- 8日(土) わらいの輪の会
- 10日(月) 【スポーツの日】
- 11日(火) リサイクル分別収集
- 13日(木) 区協議会定例会
- 15日(土) カイロ健康施術会(憩の家)
- 16日(日) 須崎水産祭り
- 19日(水) 両神社秋の例大祭
- 24日(金) 古着回収
- 26日(日) 市特定検診(市民保健課)
- 27日(月) リサイクル分別収集
- 28日(火) 下田岳精会詩吟大会

野生動物の出没に備えて

浜崎小学校 校長 菊池 正仁

三十一日間の夏休みが終わり、ニコニコ顔の子供たちが久しぶりに学校に戻り、八月二十四日から二学期が始まりました。コロナ対策を考えていた大きながら、各ご家庭で夏休みを楽しく過ごす工夫をしていただいた様子を子供たちが教えてくれました。そんな折、始業式の翌日に爪木崎口の信号に立ちました。すると、保護者の方が「たった今、家の前で五頭程のサルの群れを見かけました。」と教えてくれました。安全に関する情報提供はともありがたいです。その後を通る子たちにサルの件を伝えると、ウリボウも見たという子もいました。学校でも、注意喚起をしましたが、もう一度、野生動物への対応を調べ直してみました。

【サルはこんな動物です】

- ①飛び跳ねて二m位の高さまで手が届く ②物を持ち上げる力は十kg程度 ③視覚、嗅覚、臭覚は人間と同等 ④記憶力(場所・出来事・人)や学習能力は高い
- ⑤行動時間は昼間 ⑥何でも食べる雑食性 ⑦基本的には十〜百頭の群れで活動(民家に現れるのは離れたサルが多い) ⑧同じ刺激をすると慣れる

【サルに出会ったら】

- ①猿には近づかない(むやみに近づくと襲われることも：猿の見えないところに離れる) ②猿に出会ったら刺激せず落ち着いて離れる(大声、物を投げる、棒などで追い立てると興奮して襲ってくることも。視線を合わせない：威嚇されたと思ひ視線をそらした時に襲う場合があり、猿の目は見えない) ③サルにえさを与えない(えさを与えると人を怖がらなくなり家に侵入するなどの被害が発生する恐れがある)

【イノシシはこんな動物です】

- ①オスの成獣は鼻で七十kgの重さを持ち上げる ②数キロ泳げる ③時速四十km以上で走り一m以上の跳躍力 ④地面を潜り二十cmの隙間を潜り抜ける ⑤突進力は成人男性と同等、む力は二倍以上 ⑥犬並みの鋭い嗅覚 ⑦人を恐れ夜間の活動が多いが、安全な場所では昼間でも活動 ⑧優れた学習能力

【イノシシに出会ったら】

- ①猪には近づかない(ウリボウの近くに母猪がいるので近づかない) ②出会ったら落ち着いて行動(あわ

て走り出さず落ち着いて速やかに立ち去る) ③イノシシを刺激しない(大声、犬をけしかける、物を投げる、棒で追い立てると興奮して人を襲う可能性がある) けがをした猪や住宅地に迷い込んだ猪にはブロック塀の裏や家の中など、見えないところへ避難する ④エサを与えない(民家の近くに居ついでしまう)

近年、野生動物を見かけることが珍しくなくなってきました。それらの動物の特性を知って、安全に過ごしていただけたらと思ひ紹介しました。どうやら関わりをなくし、刺激しないことがポイントのようです。少しでもお役に立てたら幸いです。ちなみに私の住む地区ではサル、猪に加えシカまで出沒します。お手上げに近い状況です。

〜8月の学校の様子〜



8/24 始業式 リモートで実施

8/31 企業や大学のOBの方々による理科実験教室(中・高学年)



須崎で見られる野鳥

丑嶋 久雄

17, シジュウカラ(四十雀)

最近、TVで何度かシジュウカラについての放送がありました。ご覧になりましたか？(同名のテレビドラマもありました)

京都大学の研究によると、シジュウカラには言葉があった。「危険が迫るとお互いに鳴き声で知らせあっている」という内容でした。例えば「鷹が上空を飛んでいる」とか「蛇が近づいてくる」という事を鳴き声で知らせているのです。これを聞いた親鳥はヒナを避難させるそうです。凄い能力ですね。



私は須崎で2回しか見ておりませんが、シジュウカラは極東ロシアから東アジアに分布、日本ではほぼ全国で見られる留鳥です。体長14.5cm。体重は14gくらい、雌雄ほぼ同色です。黒い頭、白いほお、むねに太くて黒いネクタイもようがあります。背中は緑色、つばきは灰色です。平地から山地の林にすみ、昆虫や木の実を食べます。キツツキの穴など、木の穴に巣をつくりますが、人工的な巣箱もよく利用します。地鳴きは濁ったような声で「ギンギンギンギン」と鳴き、春の繁殖期には「ツツピンツツピン」と囀ります。

「四十の雀」と書いてシジュウカラ。たくさん群れるから、という説や、スズメ40羽分の価値があったことから名付けられたという説もあります。また、「ゴジュウカラ」という野鳥もいるようです。

こんな話を見つけた。

ある男が、死んでしまったシジュウカラを寺へ持って行き、出てきた小坊主に、あの世への引導(いんどう)を渡してほしいと頼みました。小坊主が「これは何ですか」と聞くので、「これはシジュウカラという鳥です」と答えると、小坊主は「なにシジュウカラ？人間でさえ人生わずか五十年というのに、なんじは小鳥の分際(ぶんざい)でシジュウカラとは生き過ぎたり。カアーツ！」と叫んで引導を渡しました。「四十雀の引導」という江戸時代のお話ですが、これは、あの有名な一休和尚の小坊主時代のエピソードだそうです。